人間力をアップし、病院、患者さんから必要とされる臨床検査技師を目指す

◎福本 義輝[1)]
社会福祉法人 恩賜財団 済生会 松阪総合病院[1)]

【はじめに】
近年、法改正により進められる検体採取やタスクシフト/シェア業務をはじめとする急速な変化に対応すべく、我々臨床検査技師には日々努力が必要である。
当院では数年後に新病院の建築が計画されており、次世代に向けた理想の検査室を構築する最大のチャンスと考えている。自分達がより良い仕事が出来るよう、また、それが院内の多職種にも有益で一番には患者さんの診療に貢献出来るような検査室を構築する事を目標としている。
今回は与えられたテーマから、自分達の職場の将来像と理想の臨床検査技師像について考える。
【職域の拡大】
当院ではタスクシフト/シェア業務の中で、現状でも無理なく可能である造影超音波検査における一連の行為、術中モニタリングに係る針電極の装着と持続皮下グルコース検査について業務を開始している。今後も更なる業務推進を継続する事が臨床検査技師の職域の拡大に繋がると考える。新しい業務を導入するためには、医師や看護師の業務負担軽減、患者サービスに加え、採算性と継続性を考慮し、病院にとって有益である計画こそが実現可能と思われる。
【業務の効率化】
日常業務において特に検体検査の効率化には、自動化（ロボット化）が大きな役割を果たす。次世代の検体検査装置では、採血管の開栓、検体の遠心・分注などの前処理作業の機械化や検査室外も含めた効率的な業務の流れと技師の配置を考えたレイアウト、TAT の短縮、コスト削減などを実現させたいと考えている。採血から検査結果報告までの総合的な検査時間の短縮と、それによる外来患者の待ち時間の短縮、入院患者の至急検査への迅速な対応が可能となり、更には業務の効率化によって得られる人員が検査室外での業務に従事出来ればと考えている。例えば、病棟や救急外来での常駐業務が無理なく出来る体制作りが課題であると考えている。
【品質保証】
患者さんに信頼される正確で精度の高い検査結果を提供するには、外部機関の評価を受ける事は非常に重要である。当院では病院機能評価や日臨技の精度保証施設認証を受けているが、新病院においては、ISO 規格認証取得も視野に入れている。また、超音波検査領域では、日超検による精度保証施設認定を現在受審中である。このように、外部機関の客観的な評価を受ける事で自分達のレベルアップが継続され検査室の品質向上に繋がると考える。
【人材育成】
良い人材を育成するためには理想の教育が出来る指導者が必要であり、また、その環境も人の成長に大きな影響を与える。良い人材を育てる環境は、先輩から後輩へ繰り返し受け継がれる「想い」によって作られると考えている。我々は人材育成について、仕事だけでなくコミュニケーション能力向上や相手に対するリスペクトの啓発に努め、それぞれの人間力をアップする事も目標にしている。
【まとめ】
理想の臨床検査技師像として現在では、検体採取からはじまり、検査施行と結果報告、検査結果の説明までが臨床検査技師が担う行為であり、一連の行為に精度を保証する事が原則である。次世代では、得られた検査結果から自分達が考え、可能な範囲で臨床検査技師が次の検査オーダーへ介入出来るような素養を備える事が望まれる。
我々は、それぞれの人間力をアップし、これからも求められる多様なニーズに応えられるよう努力を続け、病院や地域の患者さんに必要とされる臨床検査技師を目指したいと思います。

連絡先：0598-51-2626